

「日々の理科」(第 2289 号) 2020, 10, 18

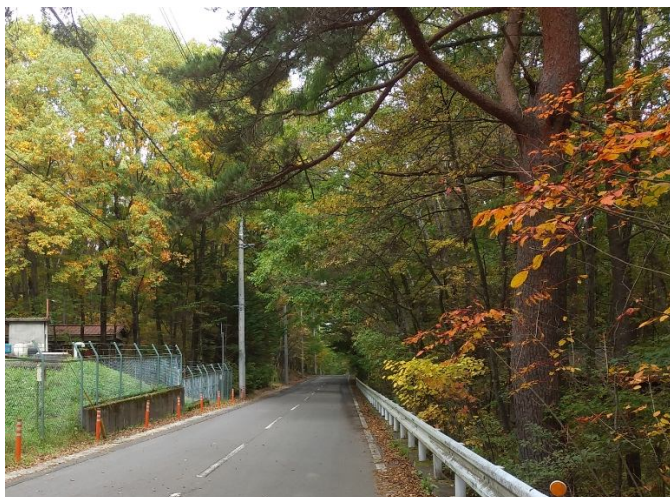
## 「浅間山の冠雪(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

台風が去ったあと、浅間高原は急に寒くなった。夕方5時ですでに8℃、朝は5℃以下まで気温が下がる。当然、紅葉も進んでいて、土日は観光客も多くなってきた。



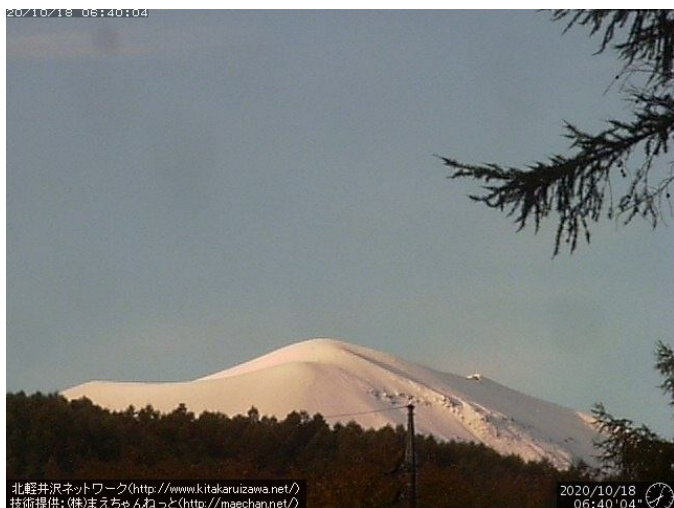
これは、北軽井沢の町道(長野原町道)の一つだ。ブナ科の木々(コナラやミズナラ)が色づいている。ツタやナナカマドはすっかり紅葉している。



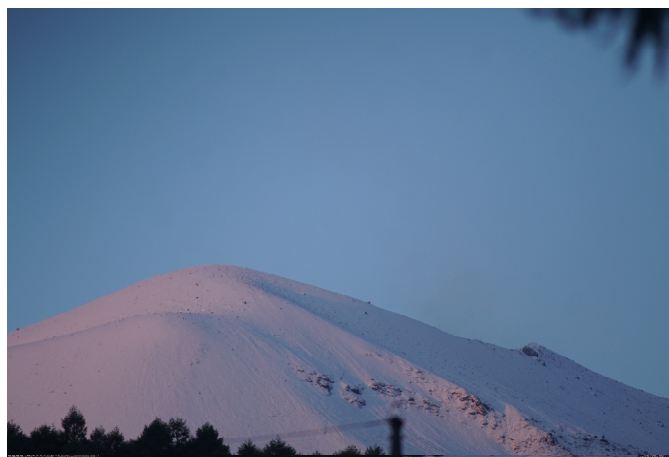
これは、北軽井沢から二度上峠(にどあげとうげ)を越えて倉渕(高崎市)へ抜ける、県道54号線の様子だ。モミジは色づいているが、奥の落葉松はまだほとんど夏の姿と変わらない。背後の山は古い火山の「鷹繁山(たかつなぎやま)」である。県道との標高差は300mほどしかないが、毎年山頂付近から紅葉が下りてくる様子が面白い。



これは2日前の10月16日の浅間山の様子だ。手前の木々ははずいぶん色づいているが、山肌は夏の浅間山と変わりなく、積雪は全く見られなかった。



そしてこれが今日(10月18日)早朝の浅間山。昨日(17日)は浅間高原は一日中雨で浅間は見えなかったが、山頂付近は雪だったようだ。



これは、もっと高精細のデジタル一眼レフの定点カメラで撮影した、早朝の浅間。まだ夜明け前の薄明の中「紅浅間」の美しい姿だ。しかし今の時期の雪は「根雪」にはならず、何日かで融けてしまうことが多い。